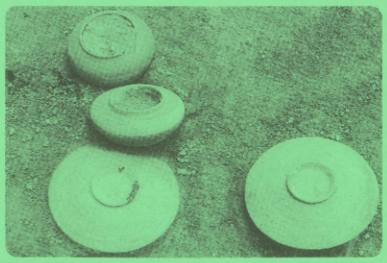
(財)米子市教育文化事業団
文化財発掘調査報告書 18

I N D A HIROBATAKE

# 陰田広畑遺跡

## 調査概報

鳥取大学附属図書館
郷土資料室



須恵器(すえき)の出土状況

1996.3
財団法人 米子市教育文化事業団

「陰田広畑遺跡調査概報」

# 正誤表

| ページ | 本文行 | 誤 | 正 |
|---|---|---|---|
| カラー 2 | 最下行 | 陰田広畑遺跡の耳環（南より） | 陰田広畑遺跡の耳環　（下記訂） |
| 2 | 下から12行目 | ‥埋蔵文化調査室では、 | ‥埋蔵文化財調査室では、 |
| 3 | 第1図 | 配石遺跡 | 配石遺構 |
| 3 | 第1図 スケール | 0　S=1/500　250m | 0　25m |
| 7 | 第6図 キャプション | ‥第1加工段鍛冶遺構変 | ‥第1加工段鍛冶遺構　（下記訂） |
| 7 | 下から3行目 | ん！古墳時代後期の‥ | ん。古墳時代後期の‥ |
| 10 | 上から15行目 | ‥場所を特定できます。 | ‥場所を推定できます。 |
| 16 | 表の上から3行目 | 一般国道１８０号道路‥ | 一般国道１８０号道路‥ |

陰田広畑遺跡全景（上空より）

陰田広畑遺跡第６テラス（上空より）

陰田広畑遺跡配石遺構（南より）

陰田広畑遺跡出土の耳環（南より）

# 例　言

1. 本書は鳥取県が実施する一般国道180号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の概報である。調査の概報は平成3年度に『新山 山田古墳群・山田遺跡・研石山遺跡』、平成4年度に『陰田妙坂谷遺跡・隠れが谷遺跡』、平成5年度に『新山遺跡群・奥陰田遺跡群』、平成6年度に『奥陰田遺跡群』、平成7年度に『新山 山田遺跡・陰田 広畑遺跡』を刊行しており今回が6冊目である。
2. 調査は鳥取県からの委託を受けて㈶米子市教育文化事業団が行った。
3. 平成7年度の発掘調査は㈶米子市教育文化事業団 山川千絵・深田洋史が担当した。
4. 本書の執筆・編集は㈶米子市教育文化事業団 深田洋史が行った。

# 目　次


はじめに……2
中海をめぐる歴史的環境……6
陰田広畑遺跡と陰田遺跡群……9
陰田広畑遺跡の鍛冶炉……10
陰田広畑遺跡の出土品……12
陰田広畑遺跡の建物……14


# はじめに

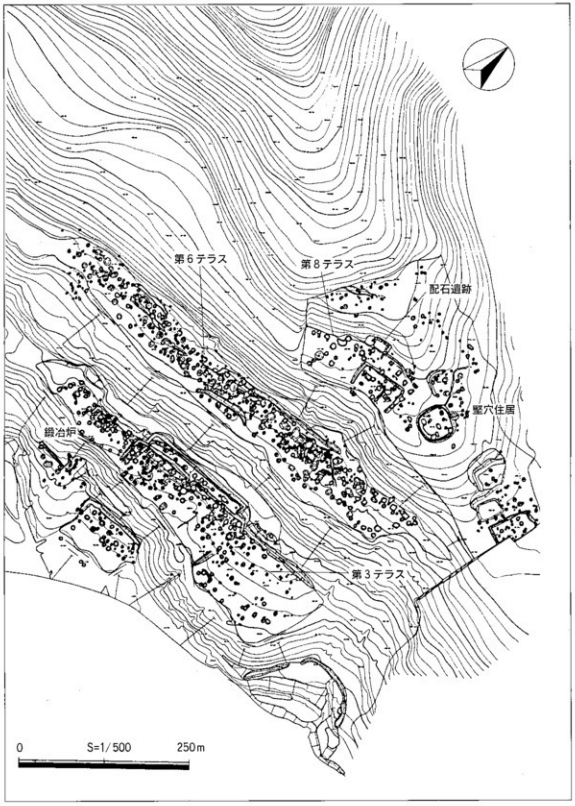
米子市教育文化事業団埋蔵文化調査室では、鳥取県からの委託を受けて、鳥取県が実施する一般国道180号（米子バイパス）道路改良工事に伴う遺跡の発掘調査を行っています。

発掘調査は、平成元年度より年度毎に継続されています。一般国道180号（米子バイパス）道路改良工事予定地内において、平成元年度より新山地域の山田、研石山、下山遺跡、平成2年度より陰田地域の夜坂谷、ハタケ谷、隠れが谷、広畑、宮の谷遺跡の調査が実施されました。

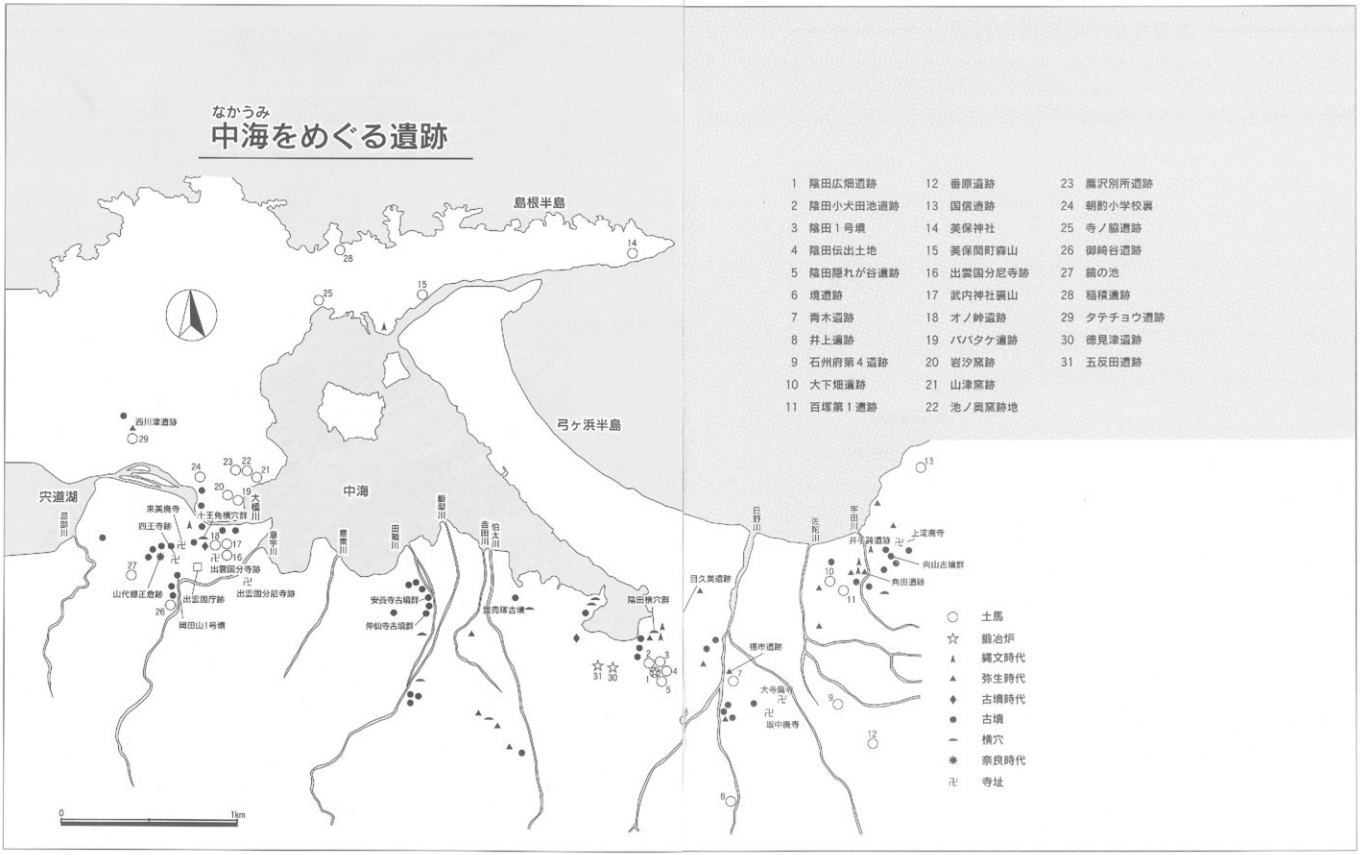
平成7年度は陰田地域で広畑遺跡、宮の谷遺跡、マノカンヤマ遺跡久幸地区の調査を行いました。陰田広畑遺跡の調査は、複数年度にわたって行われてきましたが、平成7年度をもって終了することができました。

調査の結果、陰田広畑遺跡については、弥生時代後期から平安時代にかけての人々の生活の一部が明らかになりました。陰田広畑遺跡は、奈良時代の陰田遺跡群の中心的な遺跡です。特に、陰田広畑遺跡で検出された鍛冶炉は、陰田遺跡群における鉄器生産についての重要な資料といえます。

以下、陰田広畑遺跡の発掘調査の主な成果を紹介します。




第1図　陰田広畑遺跡全体図




第２図　中海をめぐる遺跡

## 中海をめぐる歴史的環境

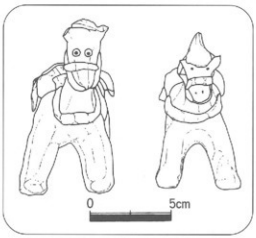
陰田広畑遺跡は、米子市陰田町に位置しています。陰田町は、鳥取県と島根県の県境の町で中海を北に臨み、三方を丘陵に囲まれています。陰田広畑遺跡をはじめ陰田遺跡群では、土馬や鉄に関連する遺物が多く出土しました。これらは中海周辺の遺跡からも多く出土する遺物です。おそらく、古代から中海を通した人々の交流があったことでしょう。

### ＜中海をめぐる土馬出土遺跡＞

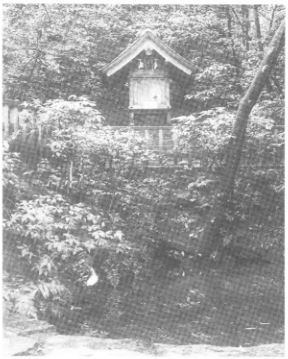
広畑遺跡では、谷部から土馬が2体出土しました。同じ陰田遺跡群内の隠れが谷遺跡からは18体も出土しています（第3図）。このように、陰田遺跡群は土馬が集中している地域です。

中海周辺の他の遺跡に目を移すと、島根半島などで出土していますが、特に松江市周辺に集中する傾向にあります。

中海周辺から出土する土馬は、性別がわかるものが多いという点が特徴です。




第３図　陰田隠れが谷遺跡の土馬



第４図　八重垣神社の鏡の池

### 出土地の性格

土馬の出土地は、大きく5つに分類できます。

① 神社・・・・・美保神社、武内神社など

② 水辺・・・・・タテチョウ遺跡、柿原池、八重垣神社の鏡の池など

③ 祭りの場・・・オノ峠遺跡、御崎谷遺跡など

④ 住居・・・・・寺ノ脇遺跡など

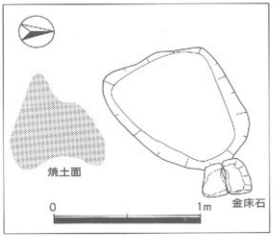
⑤ 窯・・・・・・大井古窯址群など

このような出土状況は土馬の使用目的という点で重要な手がかりを与えてくれます。

## ＜中海をめぐる鉄生産遺跡＞

陰田広畑遺跡では、鍛冶炉や土が焼けた跡などがみつかりました。また、多くの鉄生産に関係する遺物が出土しました。

第５図　陰田広畑遺跡の鉄滓



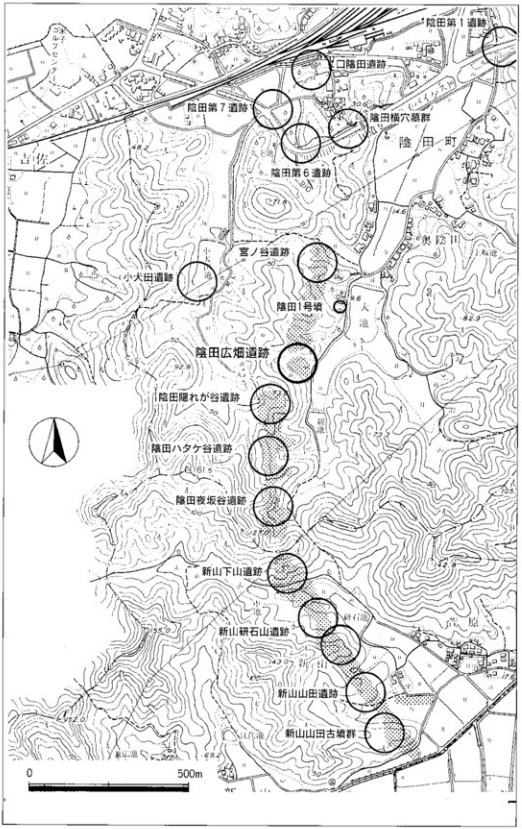

第６図　徳見津遺跡の第１加工段鍛冶遺構安
（安来道路東地区、徳見津遺跡　調査報告資料・1994年より）

中海周辺に目を移すと、陰田遺跡群のある米子市に県境を接する島根県安来市は鉄の町として知られています。安来市にある五反田遺跡、徳見津遺跡からは鍛冶工房の跡が検出されており、6世紀の終わりから8世紀にかけて鉄生産がおこなわれていたようです。安来市には、その他の遺跡として細井鉄谷鉄跡、ウガフキ鉄跡があり、古代からの伝統が今にいたるまで受け継がれているといえます。中国山地では古代から「たたら製鉄」がおこなわれていました。そして、安来港が近世に鉄の積み出し港の1つとして栄えていたようです。

第７図　安来港

### 中国山地のたたら製鉄遺跡

中国山地は品質のよい山砂鉄の山地として、出雲石見地方の山間部では古くから砂鉄採集が行われていたようです。しかし、古代にさかのぼって、これを裏付ける考古学的な資料はあまりありません！古墳時代後期の中国山地の製鉄遺構として、島根県の石見山間部で発見された今佐屋山遺跡があります。


陰田第１遺跡
口陰田遺跡
陰田第７遺跡
陰田横穴墓群
陰田町
陰田第６遺跡
奥陰山
宮ノ谷遺跡
小犬田遺跡
陰田１号墳
陰田広畑遺跡
陰田隠れが谷遺跡
陰田ハタケ谷遺跡
陰田夜坂谷遺跡
新山下山遺跡
新山研石山遺跡
新山山田遺跡
新山山田古墳群
0
500m

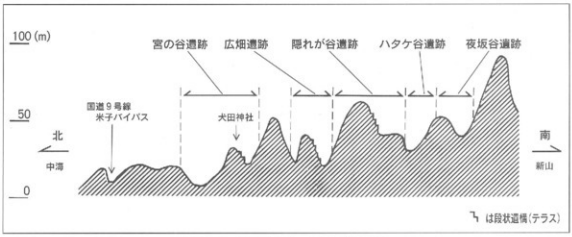
第８図　陰田遺跡群

## 陰田広畑遺跡と陰田遺跡群

陰田には、今回紹介する陰田広畑遺跡をはじめ、多くの遺跡があります（第8図）。陰田遺跡群の各遺跡に共通するのは、古墳時代後期から奈良時代の土器といっしょに鉄滓が出土することです。斜面をテラス状に加工して段をつくり、そこに掘立柱の建物を建てるのも特徴の一つです（第9図）。陰田広畑遺跡では段状遺構（テラス）から鍛冶炉がみつかりました。当時の陰田遺跡群では鉄製品の生産が行われていたことがわかります。

また、陰田遺跡群ではお祭りに使われたと思われる土馬が出土することも特徴といえます。第10図は広畑遺跡での土馬の出土状態です。

つまり、陰田遺跡群の性格は「鉄」と「祭祀」に代表されます。中海周辺は、鉄生産に関連する遺跡が多く、土馬も多く出土する地域です（第10図）。陰田遺跡群は、中海周辺で暮らしていた古代の人々の生活を復元するうえで、重要な遺跡の1つなのです（第11図）。




第９図　陰田遺跡群断面模式図

第 10 図　土馬の出土状況

第 11 図　陰田からみた中海

## 陰田広畑遺跡の鍛冶炉

陰田広畑遺跡から、奈良時代の鍛冶炉がみつかりました。平安時代に作られた「延喜式」という書物には、『伯耆の鉄』は庸、調（昔の税金）の対象としてあげられていました。陰田広畑遺跡の鍛冶炉は奈良時代（8世紀）のもので、延喜式の頃と1世紀程時代は異なりますが、飛鳥・白鳳時代から平安時代にかけて、この遺跡で鍛冶工房が営まれていました。

### ＜鍛造剥片と粒状滓＞

砂鉄から作った鉄の塊をを熱し、叩き鍛えて鉄製品にする工程を鍛冶といいます。鍛冶は、鉄の塊に含まれている不純物を取り除き、鉄の強度を高めていく作業です。第12図のような姿で作業していたと考えられます。

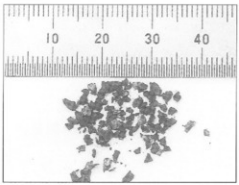
鍛冶作業時に飛び散った火花が冷えたもののことを『鍛造剥片』といいます。大きさは1.5～ 5㎜, 厚さは0.1～ 0.8㎜の非常に薄い鉄片です。また、玉状の鉄滓（粒状滓）も鍛冶炉の周辺にみられます。『粒状滓』は直径0.6～3.5㎜で、鍛冶作業時に製品から雫状に落ちたものです。

第16図は、鍛冶炉周辺の土の中に鍛造剥片がどのくらい含まれているかを表わしたものです。これにより作業を行っていた場所を特定できます。

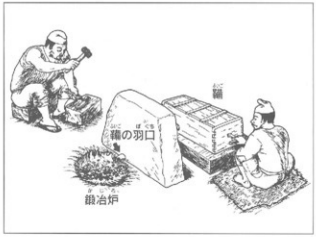
鍛冶炉の東側で鍛造剥片と粒状滓の分布密度が高くなっています。ということは、この場所で作業が行われていたことが考えられます。

### ＜鍛冶炉＞

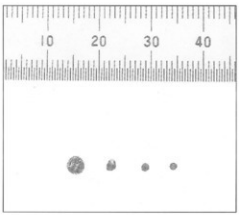
一番高い熱を受けた白い部分には、第15図の輔の羽口が置かれていたと考えられます。輔の羽口は鍛冶炉に新鮮な空気を送り込むところです。新鮮な空気が送り込まれるので、燃える温度が高くなり、高い熱を受けることになります。



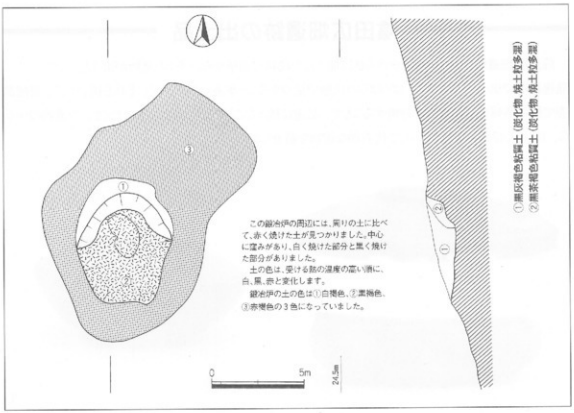

第13図　鍛造剥片



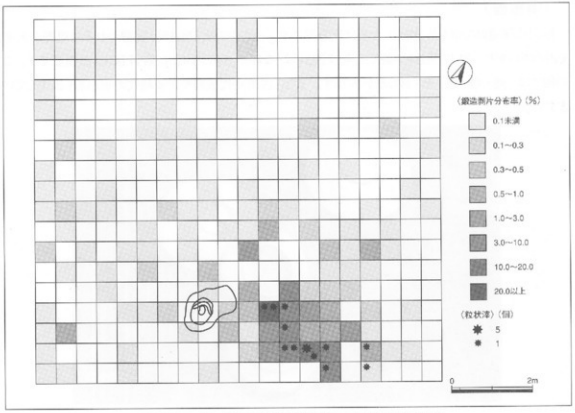

第12図　鍛冶作業風景図
（瀬見　浩「技術の考古学」有斐閣より）




第14図　粒状滓



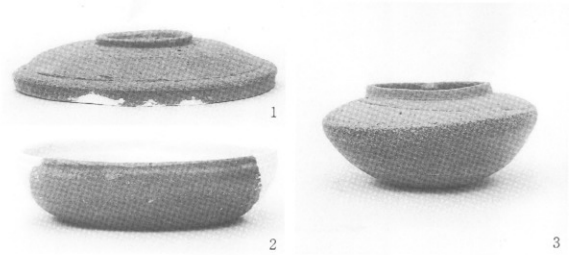

第15図　第3テラス鍛冶炉




第16図　鍛冶炉周辺鍛造剥片・粒状滓分布図

## 陰田広畑遺跡の出土品

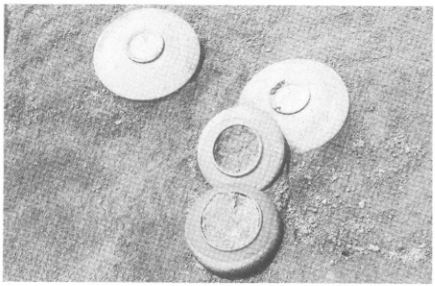
陰田広畑遺跡では、斜面をテラス状に加工した段状の遺構から、多くの遺物が出土しました。発掘調査で出土した遺物は、ばらばらの状態で見つかることが多いのですが、それを接合して、発掘調査で得た情報をもとに整理・分析することで、私達に様々なことを教えてくれます。たくさんの遺物の中から、陰田広畑遺跡を考えるうえで代表的な遺物を紹介します。




第17図　須恵器

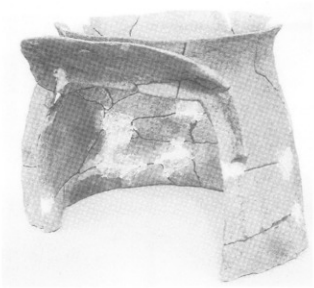
〈須恵器〉

陰田広畑遺跡で最も多く出土したのは須恵器です。その中でも、奈良時代と思われる須恵器が大半を占めています。第17図1は坏蓋で、第17図2のような坏とセットになります 第17図3は短頸壺です。この他には、甕・壺・鉢・皿・鉢などがあります。また、古墳時代後期や平安時代の須恵器も出土しています。



第18図　須恵器の出土状況

第19図　土製支脚



第20図　土製竈

〈土製竈・土製支脚〉

第20図が土製竈です。第19図は土製支脚とよばれるもので、甕などをのせて支える道具です。どちらも実用品と考えられますが、除田広畑遺跡出土の土製竈には、火を使用した痕跡を残すものはあまりみられません。お祭りに使われることもあったと考えられます。

第21図　土馬

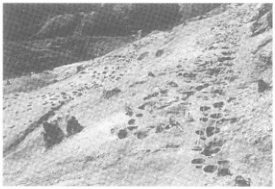
〈土　馬〉

除田遺跡群では、除田隠れが谷遺跡などで土馬が多く出土しています。土馬には須恵質と土師質のものがありますが、広畑遺跡で出土した土馬（第21図）はいずれも土師質の土馬です。背中には鞍が乗せてあり、朱が塗られています。雌雄が分かるものもありますが、広畑遺跡の土馬にはそれを示すシンボルはみられません。土馬が完全な形で出土することは稀で、多くの場合はどこかが壊された状態でみつかります。お祭りの道具として使われていたと思われ、特に、雨乞いなどの水に関わるお祭りと関係があると考えられています。

## 陰田広畑遺跡の建物

陰田広畑遺跡の建物は、山の尾根の頂部や谷の斜面部を利用して作られています。尾根または斜面を断面L字状に削って平らな床（テラス）を作り、そこに用途に応じて建物を建てていたようです。

テラスは、谷全体に大小10以上もあり、幅はおよそ15～20m、長さは小さいものは12mから大きなものは70m近くもありました（第22図）。



第22図　陰田広畑遺跡第3・6テラスの掘立柱建物群
尾根又は斜面をL字状に加工 整地し 柱穴を掘り込んで建物を建てています。

### 〈掘立柱建物跡〉

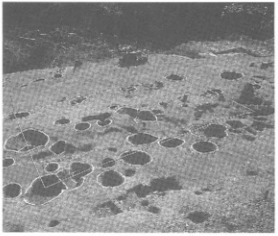
陰田広畑遺跡の南側斜面のテラスには、約25棟の掘立柱建物が建てられていました。建物は、テラスに沿って並び、何度か建て替えられていたようです。また、建物の後ろ側には、溝がコの字状に掘り込まれていて、斜面から落ちてきた水を排水する役目をもっていたと思われます。

出土遺物をみると、これらの建物は奈良時代のものが多いようです。床に鍛冶炉や土が焼けた跡が残っているものもあり、主に作業場やすまいとして使われていたと思われます（第23図）。

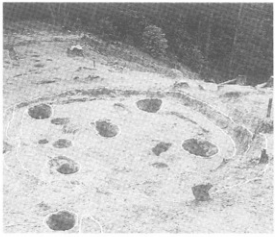
### 〈竪穴住居跡〉

陰田広畑遺跡の尾根部のテラスに、6棟の竪穴住居が建てられていました。第8テラスの竪穴住居の1つは、1辺が約5mの隅が丸い方形で、柱が4本、床の真ん中に穴が掘ってありました。

この住居は、弥生時代の終わりから古墳時代の初めの頃のものと思われます（第24図）。



第23図　掘立柱建物跡（第6テラス）
穴の位置や方向を見て建物の形や大きさを復元します。



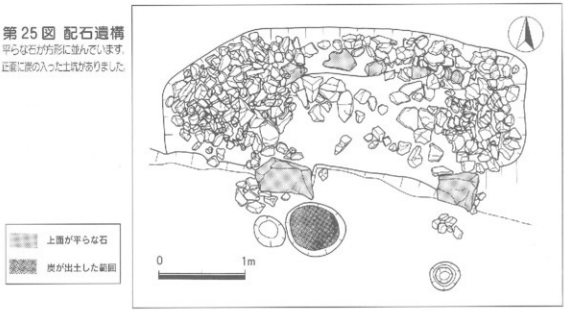
第24図　竪穴住居跡（第8テラス）
柱を立て 屋根でおおった半地下式の住居です。

〈配石遺構〉

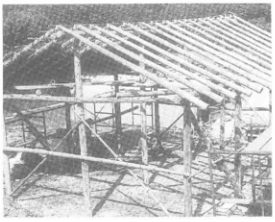
第8テラスの北側に石を並べた遺構がありました。テラスの壁を掘り込んで造られた幅が約4.0m、奥行きが約1.7mの区画の中に大きさ10～30cmの石がたくさん敷かれ、手前に2つ、50～60cmの大きくて上が平らな石が置かれていました。これらの石は、いずれも角張った山の石が使われていました。また、配石遺構の正面には、炭の入った径が約70cmの浅い穴がありました（第25図）。

出土遺物より、この遺構は古墳時代の終わりから奈良時代のものと思われます。

この遺構をよくみると、手前の2つの石の奥にも平らな石が横向きに並んでいます。この四角く並ぶ平らな石の上に何か置かれていたのでしょうか。遺構がある場所や平らな石が並ぶ範囲などから推測すると、この配石遺構の上には、小さな神社のような建物があったのかもしれません（第27図）。




**第25図 配石遺構**
平らな石が方形に並んでいます。正面に炭の入った土坑がありました



第26図　掘立柱建物の復元

第27図　「こんな建物が建っていたのでしょうか。」

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| フリガナ | ｲﾝﾀﾞﾋﾛﾊﾞﾀｹｲｾｷ |
| 書　名 | 陰田広畑遺跡 |
| 副書名 | 一般国道180号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 |
| 巻　次 | |
| シリーズ名 | 米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ番号 | １８ |
| 編著者名 | 深田洋史 |
| 編集機関 | (財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 |
| 所在地 | 〒６８３　鳥取県米子市中町２０番地　℡ ０８５９－２２－７２０９ |
| 発行年月日 | 西暦　１９９６年　３月　２９日 |

| フリガナ | フリガナ | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | ° ′ ″ | ° ′ ″ | | $m^2$ | |
| ｲﾝﾀﾞﾋﾛﾊﾞﾀｹ<br>陰田広畑 | ﾄｯﾄﾘｹﾝﾖﾅｺﾞｼｲﾝﾀﾞﾁｮｳ<br>鳥取県米子市陰田町1,755番地他 | 31202 | ７３４ | 35°24′02″ | 133°19′44″ | 19950401<br>～<br>19960331 | 12,500 | 道路建設 |

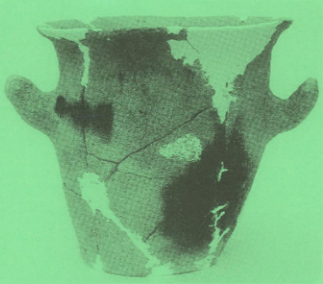
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 陰田広畑 | 集落跡<br>鍛冶工房跡 | 弥生時代後期<br>～古墳時代前期<br><br>古墳時代後期<br>～平安時代 | 竪穴住居跡５基<br>掘立柱建物25基<br>石組遺構　１基<br>焼土坑　４基<br>鍛冶炉　１基 | 土師器<br>須恵器<br>鉄滓<br>鉄製品<br>石器<br>土馬<br>耳環 | 集落形成が、２時期に分かれる。<br>３テラスより奈良時代の鍛冶炉を検出。 |

財米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書18
一般国道180号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

# 陰田広畑遺跡

## —発掘調査概報—

発行者　財団法人　米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
〒683 鳥取県米子市中町20　TEL 0859-22-7209
印　刷　㈱エッグ
〒683 鳥取県米子市旗ヶ崎6丁目5－11　TEL 0859-29-8881



甑形土器